

No.	氏名	所属・肩書	担当分野	一言メッセージ	紹介文
1	浅倉 真司 (あさくら しんじ)	Tesla Motors Japan 合同会社 エナ ジープロダクツ カントリーマネジャー	経営戦略(ものづくり) 航空機(エンジン) ガスタービン Sustainable Energy 蓄電池システム 電気自動車	皆さんの製品・技術の優位性をユーザーの立場に立 ったエコシステムとしてきちんと把握すれば、必ず道は開け ます。これまでとは異なる決断をするお手伝いをできれ ばと思います。 ＜技術を見る目＞ -何が、何処が「凄い」技術なのか？ -どのくらい「凄い」技術なのか？ -それを使うと「何に」「どのような定量的な利点」が生ま れるのか？ -Technology Value Chain & Eco-system -Business Model	1981年株式会社IHI航空エンジン事業部入社。1993年にGE Power Systemsに入社、2006年よりエネルギーアプリケーション エンジニアリング・アジアパシフィックリージョンリーダーとしてイン ド・中国を除くアジアパシフィックの国におけるエネルギービジネス の営業・技術を統括。2011年にGEグローバルリサーチセン ター 先端テクノロジー・プロジェクト開発担当マネージャーに就 任、2012年よりグローバルリサーチセンター日本代表に就任 し、2017年4月に退任。2018年5月Tesla Motors Japan合同 会社 エナジープロダクツ部門の日本国カントリーマネジャーに 就任。現在に至る。
2	池田 弘 (いけだ ひろむ)	NSGグループ 会長	スポーツ 地方創生	新型コロナウイルスにより、社会に大きな変化が訪れまし た。様々な課題が生じ、それを解決することに新たなビジ ネスの機会があります。これまでの常識に捉われない自 由な発想で社会課題の解決を図る事業へチャレンジす ることで、世界は必ず復興を遂げる事ができます。明るい 未来の実現のために新たな事業の創造に取り組んでま いりましょう。	早稲田大学大学院スポーツ科学研究科修士課程修了。NSG グループ会長、(株)アルビレックス新潟取締役会長。國學院大 学で神職を学び、1977年愛宕神社宮司に就任。同年、新潟 総合学院を開校、理事長に就任。以来、教育事業、医療福祉 事業を中心に展開してきた。会長を務めるNSGグループは、新 潟県、福島県、東京都を中心に、大学院大学、大学、専門職 大学、34校の専門学校、高等学校等の学校教育事業や学習 塾、出版・検定等の教育関連事業、病院等の医療事業、福祉 介護事業を展開。さらには健康・スポーツや建設不動産、食 農、商社、広告代理店、金融サービス、法人サービス、生活 サービス、エンタテインメントなど幅広い事業分野の106法人から なる。
3	伊佐山 元 (いさやま げん)	株式会社Wil 共同創業者兼CEO	海外展開	今後世界のデジタル化が加速します。国内外の技術動 向やベンチャー動向をお伝えすることで、デジタル社会 実現のために協力できればと思います。	1995年にウェブデザインとコンサルを行うArch Pacificをスタン フォードの学生と創業。1997年東京大学法学部卒業後、日本 興業銀行に入行、スタンフォード大学ビジネススクールに留学 後、米大手ベンチャーキャピタルのDCM本社パートナーとして、 シリコンバレーで10年間にわたり、日米中のITベンチャーへの 投資育成を手掛ける。2013年、日米を中心としたベンチャー 企業の投資、大企業のスピンアウトベンチャーの創出や企業内 起業家育成などを行うWilを創業。日米を拠点に活動してお り、日経産業新聞等各種メディアでコラムを執筆している他、 産業構造審議会はじめ、多くの政府関係の委員を務め、日本 発グローバルに通用するベンチャーの育成のための仕組み作 りに励んでいる。

No.	氏名	所属・肩書	担当分野	一言メッセージ	紹介文
4	影山 裕史 (かげやま ゆうじ)	学校法人金沢工業大学 大学院工学研究科高信頼ものづくり専攻 教授	新素材(循環型・CFRP /バイオマス等)	コロナ禍の今だからこそ、将来に対し地方との今まで以上に密な対話が必要。地方のあるべき将来像と現状とのギャップの視える化を通し、中央と地方が連携する産官学(民)体制で問題を発見することから始まる。改善のポイントは、人、モノ、金、情報、が自然に循環し、更にはレベルアップして戻ってくる個性を活かした地域型循環社会の仕組みづくりであり、創意工夫を基調とした地域主体のものづくりをお手伝いできればと考えている。	東京工業大学有機材料工学修士課程修了後、トヨタ自動車入社。東富士研究所での自動車ボデーやユニットの軽量化およびバイオプラスチックの研究に従事。その後、PLA部材の車載や本社技術部でのレクサスLFAのCFRPボデーや水素タンクの量産化開発を経て、定年と同時に現職に就任。講義の他、企業との共同研究やコンサルにて研究開発に携わり、また、政府系では「環境省NCVプロジェクト」サブプロジェクトリーダーを歴任、現在、NEDO「革新的新構造材料等研究開発」サブプロジェクトリーダー、NEDO技術委員、経産省「CASE技術戦略プラットフォーム」委員、富士市「CNF関連産業推進懇話会」委員などを兼任。
5	梶川 裕矢 (かじかわ ゆうや)	国立大学法人東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 国立大学法人東京大学 未来ビジョン研究センター 教授	技術経営	従来は製造業や情報産業が中心であったイノベーションが、現在は農林水産業やサービス業などあらゆる業種・業態に広がっています。そのため、地域未来牽引企業にとっての事業機会、産学連携機会、活用すべき先端技術も多岐に広がってきています。地域の未来のための機会領域について議論が出来ればと思います。	東京大学大学院工学系研究科修了、博士(工学)。名古屋大学イノベーション戦略室客員教授。専門はイノベーション学とサステナビリティ学。JST共創の場形成支援プログラム(地域共創分野)アドバイザーや外務省科学技術外交推進会議委員等として、産学連携支援や科学技術政策形成等に携わっている。
6	川西 哲也 (かわにし てつや)	学校法人早稲田大学理工学術院基幹理工学部電子物理システム学科 教授	通信・エレクトロニクス	わくわくするようなプロジェクトにご一緒できればと思います。まずは、海外「=海の外」と国内を別個に考えることなく、グローバルが当たり前にすることをめざして、少しでもお役に立てるようにがんばりたいと思います。	京都大学大学院修士課程修了後、松下電器を経て、京都大学大学院博士課程修了、博士(工学)取得。京都大学ベンチャービジネスラボラトリー特別研究員を経て、1998年郵政省通信総合研究所(現国立研究開発法人情報通信研究機構)に入所。元同機構光ネットワーク研究所光通信基盤研究室長。電気工学・電子工学の分野で活動。2004年カリフォルニア大学サンディエゴ校客員研究員。2013年IEEEフェロー。専門は電気信号を光信号に変換する部分である光変調に関連する分野。スピードだけではなく、圧倒的な正確さにこだわるといふスタイルで研究を進めてきた。精度の高さが活かされた分野としては電波天文への応用が挙げられ、世界最大の電波望遠鏡ALMAの基準光信号にも使用されている。最近では滑走路や線路の安全を監視するためのレーダシステムにも応用を進めている。総務省異能vation スーパーバイザー。

No.	氏名	所属・肩書	担当分野	一言メッセージ	紹介文
7	國井 秀子 (くにい ひでこ)	芝浦工業大学 客員教授	経営戦略	地方の発展にはその地域を中心としたイノベーションのエコシステムの構築が重要です。	1982-2008年株式会社リコーのソフトウェア分野の研究開発責任者、2005-2008年常務執行役員。2002-2004年理光軟件技術(上海)有限公司、及び2004-2008年理光軟件研究所(北京)有限公司の董事長を兼務。2008-2013年リコーITソリューションズ株式会社取締役会長。2012-2018年芝浦工業大学大学院工学マネジメント研究科教授。2013-2018年同学学長補佐兼務。2014-2019年本田技研工業株式会社社外取締役、2015-2021年株式会社三菱ケミカルホールディングス社外取締役、現在、株式会社INCJ産業革新委員、東京電力ホールディングス株式会社社外取締役、一般社団法人日本MOT振興協会副会長。
8	小池 聡 (こいけ さとし)	ベジタリア株式会社 代表取締役社長	食・健康・農業 フードテック・アグリテック 地方創生 スマートシティ	With/Afterコロナ時代は、人々の価値観や生活様式も変わり、より健康や食への関心が高まりフードテックへの取り組みも本格化してきます。また、グローバルなフードサプライチェーンも大きく変化し、気候変動に対応した農業生産や食料安全保障の観点からもスマート農業の重要性が増してきます。「健康と食と農業を科学する」テーマや農業・食・健康を軸とした地方創生関連でお手伝いできればと思います。	1959年東京生まれ。iSi電通アメリカ取締役副社長COOを経て、1990年代をニューヨーク・シリコンバレーを中心にベンチャーキャピタリストとして活動。1997年米国にNetyear Groip,inc.を創業しスタートアップの投資&インキュベーションを活発化。1999年日本にネットイヤーグループ(2008年東証マザーズ上場)を設立し、日本でのITベンチャー活性化を目的にビットバレー構想を提唱。2006年にネットエイジグループを代表取締役として株式公開(東証2497、現ユニテッド)。東京大学EMP(ExecutiveManagementProgram)の1期生として入学し2009年EMP終了後に就農。2010年、食・農・健康・環境をテーマにイノベーションを目指す東京大学EMP発のベンチャー企業としてベジタリア株式会社を設立。特に科学とテクノロジーを活用した健康と食(フードテック)および農業(アグリテック)・周辺産業の高度化・知識産業化と国際展開とスマートフードチェーンの実現を目指す。東京商工会議所(渋谷支部)副会長、公益社団法人ベトナム協会理事、文部科学省 科学技術・学術審議会産業連携・地域振興部会委員、文部科学省 COIビジョナリーリーダー、文部科学省 卓越大学院大学プログラム委員。
9	高橋 智隆 (たかはし ともたか)	株式会社ロボ・ガレージ 代表取締役社長	ロボット	エンジニア、起業家、クリエイターの視点から、ロボットの活用や実用化のお手伝いをさせていただきます。	ロボットクリエイター。東京大学先端科学技術研究センター特任准教授、大阪電気通信大学メディアコンピュータシステム学科客員教授等を歴任。株式会社ロボ・ガレージ代表取締役社長、ヒューマンアカデミーロボット教室アドバイザー、総務省異能vation スーパーバイザー。2003年京都大学工学部卒業と同時に「ロボ・ガレージ」を創業。米TIME誌「2004年の発明」、ポピュラーサイエンス誌「未来を考える33人」に選定。代表作にロボット電話「ロボホン」、ロボット宇宙飛行士「キロボ」、デアゴスティーニ「週刊ロビ」、グランドキャニオン登頂「エボルタ」など。

No.	氏名	所属・肩書	担当分野	一言メッセージ	紹介文
10	西口 尚宏 (にしぐち なおひろ)	一般社団法人 Japan Innovation Network 代表理事	イノベーション経営・戦略 コンサル	既存組織からイノベーションを興すためには、起業家精神の鼓舞、育成、支援と共に、数多くの社内起業家が活躍するイノベーション・マネジメントシステム(IMS)の導入と成熟が必須です。大企業支援を通して得られたノウハウを集約した独自のフレームワークと国際規格ISO56002を活用しながら、各企業の抱える課題や強化すべき要素を洗い出し、様々な外部パートナーと連携しながら「IMSの導入」と「具体的なプロジェクトの支援」を実践しています。企業のイノベーション・プロジェクトを包括的に加速支援出来ればと思います。	上智大学経済学部卒、ノースウェスタン大学ケロッグ経営大学院卒(MBA)。日本長期信用銀行、世界銀行グループ、マーサー社(ワールドワイドパートナー)、産業革新機構(執行役員)等を経て現職。2013年から数多くの大企業の経営者、ミドル、ジュニアと連携して、企業内からイノベーション興す取り組みを続けており、数多くの成功事例を創出。世界各国のスタートアップとの連携や、イノベーション・マネジメントシステムのISO化においては、日本を代表して原案作成を行うなど、世界各国との連携にも注力している。オープン・イノベーション活動としてSDGs(持続可能な開発目標)をイノベーションの機会として捉える「SHIP(SDGs Holistic Innovation Platform)」をUNDP(国連開発計画)と共同運営。ISO TC279 委員。
11	西澤 民夫 (にしざわ たみお)	一般社団法人オープンイノベーション促進協議会 代表理事	経営戦略 地方創生 ファイナンス	日米の中小企業・ベンチャーの成長支援を半世紀続けています。AI、宇宙時代のルールに対応する新しいビジネスモデルを構築して、日本の将来を作り上げていきましょう。	中小企業金融公庫(現・日本政策金融公庫)で19年中小企業・ベンチャー成長の根本を学びました。その後、山一證券米国子会社のベンチャーキャピタル社長として本場アメリカで5年間、日本にて18年間ベンチャーキャピタリストとして活躍。中小企業基本法の改正に伴い中小企業基盤整備機構にて本部統括プロジェクトマネージャーを15年務めました。現在は科学技術振興機構(JST)で大学発ベンチャー企業投資を担当するプログラム・オフィサー等を務めています。
12	林 龍平 (はやし りょうへい)	一般社団法人日本ベンチャーキャピタル協会 理事 株式会社ドーガン・ベータ 代表取締役 パートナー	ベンチャー・ファイナンス	「地方創生をテーマに、主に九州エリアで活動する地域特化型ベンチャーキャピタルです。本社所在地に関わらず、世界を変えるスタートアップを主に資金調達面で支援をしておりますので、ベンチャーファイナンスに関するご相談など中心にご支援させていただきます。」	1999年住友銀行、2001年シティバンク、エヌ・エイを経て、株式会社ドーガンに2005年より参画。主にベンチャー支援業務に取り組む。4本総額50億円のベンチャーファンド立ち上げを行い、これまでに約35件の投資を行ったほか、2012年には起業家支援のためのシリコンバレー型コワーキングスペース「OnRAMP」を福岡市に開設し、地元起業家のコミュニティ形成支援を行っている。また、2014年には福岡市がカルチャー・コピニエンス・クラブと共同で中央区天神に開設した「スタートアップカフェ」の設立プロジェクトにも参画。2017年株式会社ドーガン・ベータ設立。 株式会社ドーガン 取締役、一般社団法人OnRAMP 代表理事、一般社団法人日本ベンチャーキャピタル協会 理事 地方創生部会長 福岡県出身 九州大学法学部卒

No.	氏名	所属・肩書	担当分野	一言メッセージ	紹介文
13	程 近智 (ほど ちかとも)	アクセンチュア株式会社 相談役	経営戦略・戦略コンサル	益々グローバルレベルでのオープンイノベーションをどう活用して行くかが、競争力の源泉となりますが、そのような視点で皆様をご支援したいと思います。	1982年スタンフォード大学工学部卒業、91年コロンビア大学経営大学院(MBA)修了。 1982年アクセンチュア株式会社入社、2005年代表取締役、2006年代表取締役社長に就任、2015年取締役会長、2017年取締役相談役に就任。2018年7月より現職。現在はビジネス・セクター、ガバメント・セクター、アカデミック・セクター、ソーシャル・セクター、スタートアップ・VCセクターなどにおける活動を行っている。2017年から2021年経済同友会副代表幹事。現在東京大学経営協議会委員、早稲田大学客員教授、数社の社外取締役、顧問なども務めている。
14	森 健 (もり けん)	株式会社ローランド・ベルガー 元日本代表	経営戦略・戦略コンサル	アフターコロナの時代、経営の舵取りには、これまでと変わらない普遍的なもの、かつてない新しい視点が必要なものを見極めることが重要です。そして、今大きく変わつつあるもの、例えば新たな消費者ニーズや社会からの要請、多様な働き方などは、地域企業にとって強力な武器になる可能性があります。このような時代に発展を成し遂げるため、コンサルタントとして培った客観的な視点と進取の気性をもって皆様をご支援したいと思います。	鹿島建設株式会社、米国系戦略コンサルティング・ファームを経て、ローランド・ベルガー日本代表に就任。機械・電機・自動車をはじめとする製造業や公共機関において、戦略立案、提携支援、企業再生などの分野で豊富な経験を有する。また、グローバルなコンサルティング案件も多く手がける。
15	森 雅彦 (もり まさひこ)	DMG森精機株式会社 取締役社長	経営戦略(ものづくり)	欧州や米州のものづくり市場へ進出する企業を応援します！	DMG森精機株式会社 取締役社長 博士(工学) 1961年奈良県生まれ。85年京都大学工学部精密工学科卒業後、伊藤忠商事株式会社に入社。 93年株式会社森精機製作所(現 DMG森精機株式会社)に入社。99年、37歳の時、父親である先代(森幸男)を引き継ぎ社長に就任。社長業の傍ら、2003年東京大学大学院にて工学博士号を取得。2009年11月 GILDEMEISTER Aktiengesellschaft(現DMG MORI Aktiengesellschaft) 監査役に就任。2018年5月 DMG MORI Aktiengesellschaft 監査役会議長就任。 一般社団法人日本工作機械工業会副会長、CIRP(国際生産工学アカデミー)フェロー、京都大学イノベーションキャピタル株式会社取締役、京都大学大学院思修館特任教授、学校法人東大寺学園理事・評議員。